

令和4年度 横須賀美術館運営評価委員会

●横須賀美術館運営評価委員会（令和4年度第3回）

日時：令和5年（2023年）3月30日（木）14時00分～15時30分

場所：横須賀美術館 ワークショップ室

1. 出席者

【出席委員】	委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
	委員	菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
	委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
	委員	三浦 匡	横須賀市立馬堀小学校校長
	委員	川口 香世	市民委員
	委員	鈴木 優子	市民委員

【館長】文化スポーツ観光部長 倉林 孝英

【事務局】美術館運営課長 岡本 剛彦

美術館運営課総務係長 下田 哲央

美術館運営課総務係主査 小川淳太郎

美術館運営課（学芸員主査） 富田 康子

美術館運営課（学芸員主査） 工藤 香澄

美術館運営課（学芸員） 日野原清水

美術館運営課（総務係） 八島 裕子

美術館運営課（総務係） 安陪萌菜美

【傍聴者】0名

2. 議事

(1) 令和5年度 横須賀美術館 事業計画書（案）について

3. その他

(1) 来館者アンケートの見直しについて

(2) 今後のスケジュールについて

会議録

【開会】

〔事務局・下田〕：定刻になりましたので、「令和4年度 第3回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課総務係の下田と申します。よろしくお願いいたします。

【1 部長あいさつ】

〔事務局・下田〕：それでは、ここで事務局を代表しまして、館長の倉林より、ご挨拶させていただきます。

〔倉林館長〕：横須賀美術館長の倉林でございます。

本日は、ご多忙の中、令和4年度 第3回横須賀美術館運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、年度末のお忙しい中、事業計画案をご確認いただき、感謝申し上げます。

さて、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当館は、39日間、臨時休館となりましたが、本年度は、臨時休館もなく、スケジュールどおり展示を行うことができました。

特に夏に行いました運慶展では、目標を1万人超える5万人のお客様をお迎えすることができ、地域の貴重な文化財を市内外の多くの方にご覧になっていただく機会を創出することができました。

また、秋から冬にかけて開催しましたスカジャン展におきましても、目標を超える1万6千人のお客様をお迎えすることができ、スカジャン発祥の地であるドブ板通り商店街などの地域にも、美術館から多くの方が訪れ、地域の活性化に一役買うことができたと考えております。

その他の展示会もご好評を得て、昨日3月29日までで、1年度の観覧者数としては、開館以来3番目の14万2千人を超えるお客様をお迎えできております。

その中で、本日は、令和5年度の事業計画案についてご審議いただきます。

令和5年度は、新たなチャレンジとして、箱根地域の美術館との連携を始めるなど、さらなる一步を踏み出す年にしたいと考えています。

あわせて、教育普及事業など社会教育施設としての役割もしっかりと担いながら、1年間を進めていきたいと考えています。

この後、事務局よりこれらを含んだ事業計画書の案について説明させていただきますので、委員の皆様からは、ぜひ、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

なお、ご審議いただく事業計画案は、本日もいただくご意見等を加味・修正したうえで

確定とさせていただきます。

それでは、本日もよろしくお願いいいたします。

〔事務局・岡本課長〕ここで1件ご報告させていただきます。

観音崎京急ホテルの安藤委員におかれましては、令和4年9月末でホテルが営業終了したこともあり、委員を辞任するとのお申し出があり、令和5年3月31日付けで受託させていただきました。

後任については、現在、調整中でございます。

〔事務局・下田〕：本日の出欠状況です。

出席者は現在の委員全6名全員にご出席いただいております、横須賀美術館運営評価委員会条例第4条第2項に定める「半数以上出席」の要件を満たすこととなり、本日の会議は成立となります。

また、本日の傍聴の方を公募しましたが、どなたもいらっしゃいませんでした。

〔事務局・下田〕：それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、本日机面上にご用意させていただきましたものは、次第、資料1の「委員名簿」、資料2の「令和5年度事業計画書案」、資料3の「来館者向けアンケートの改正案」、資料4の「運営評価委員会スケジュール」の5つとなっています。

併せて、参考資料として、「令和5年度展覧会スケジュール」を配布させていただいております。また、現在開催中の「土方重巳の世界」展、4月から開催を予定しております「朝井閑右衛門展」、同じく4月から開催を予定しております箱根・横須賀連携企画第1弾の特集展示「明日への祈り展 ラリックと戦禍の時代」のチラシを配布させていただきましたので、後でご覧ください。

また、本日机面上にご用意させていただきましたお水は、走水小学校6年生が総合的学習の中でつくったミネラルウォーターです。タウンニュースにも掲載されましたが、関東学院大学と連携してペットボトルのデザインを制作したり、販路の開拓を6年生の力で行いました。美術館のミュージアムショップでも取り扱っておりますので、よろしければお買い求めください。

以上が本日の資料でございます。不足等ございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

【2 議事（1）令和5年度 横須賀美術館 事業計画書（案）について】

〔小林委員長〕：それでは、次第に沿って、議事を進めます。

議事（1）令和5年度 横須賀美術館 事業計画書（案）について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田〕：令和5年度 横須賀美術館 事業計画書（案）についてご説明させて

いただきます。

この事業計画案につきましては、新年度予算として、先日、市議会で議決された事業、また、予算には出てこない部分を含め、新年度開始に先立ち委員の皆様へ令和5年度の計画を事前説明することにより、ご意見をいただき、事業の早期改善に役立て、かつ業務の進行管理を行っていきたいと考えております。

計画書内の令和4年度の数値は全て1月末現在に統一させていただいておりますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

それでは、お手元の資料「横須賀美術館 事業計画書（案）」の1ページをご覧ください。1ページの上段の序文につきましては、館長挨拶と重複しますので割愛させていただきます。

その下の「横須賀美術館の使命・目標」については、従前と変更ございません。お手元の計画書もこちらの目標に沿った形で作成してあります。

それでは、2ページ目以降を、各担当から説明させていただきます。

〔事務局・下田〕：事業計画書の2ページをご覧ください。

「I 美術を通じた交流を促進する」のうち「① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる」の事業計画及び目標について説明させていただきます。

まず、令和5年度の事業計画ですが、「1 展覧会の実施」につきましては、例年のとおり5つの企画展と児童・生徒造形作品展の開催を予定しています。

展覧会名、会期及び観覧者の見込み数は記載のとおりです。

年間観覧者見込み 118,000 人といたしました。

こちらは、各展覧会ごとに、当館で開催した過去の同様の展覧会を参考に観覧者数を算出し、見込み観覧者数を記載しています。

次に「2 広報・集客促進事業」です。

今年度と同じ6つの柱で記載しています。各項目の具体的な取り組みにつきましては記載にあるとおりです。

令和4年度の計画からは、新型コロナウイルス感染症の「感染状況を鑑み、イベント等を中止する可能性があります。」との記載の削除以外は大きな変更はありません。

2ページ一番下、(2)につきまして、本年度の途中より始めた毎月15日のコンサートですが、来年度も引き続き開催させていただくことが決まっています。

3ページでひとつ報告させてください。(5)の商業撮影の受け入れにつきまして、先日、ユニクロのCMの撮影を行いました。綾瀬はるかさんが出演している「夏の美術館編」というタイトルになっています。ユニクロの公式YouTubeチャンネルでもご覧いただけますので、もしお時間ありましたら、ご覧ください。

次に「達成目標」ですが、4ページをご覧ください。達成すべき観覧者数として11万8千人を目標としております。

「実施目標」については、中段に記載のとおりで、今年度との変更点はありません。

〔事務局・日野原〕：続きまして、「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点とな

る。」について説明させていただきます。

5 ページをご覧ください。5つのボランティア活動についてそれぞれの回数を記しています。

「(1) ギャラリートークボランティア」は、今年度は感染拡大防止のためトークは休止し研修を中心に行っていました。令和5年度はトークを再開し、ボランティアを新規募集し研修を行うため、例年より回数が増えています。

「(2) 小学生美術鑑賞会ボランティア」は、今年度も実施しており令和5年度の実施予定も例年通りの回数です。

「(3) みんなのアトリエボランティア」は、今年度はおうちでできるプログラムをYouTubeで紹介していました。令和5年度は対面のワークショップを再開します。コロナ前は月1回、年12回開催でしたが、令和5年度は新たな講師を迎え入れるなどプログラムを刷新し年9回の開催を予定しています。

「(4) プロジェクトボランティア」は、今年度と同様に春、冬にイベントを開催予定です。夏は猛暑により参加者の身体的な危険が大きいと判断し廃止しました。

「(5) プロジェクト当日ボランティア」は、「(4) プロジェクトボランティア」の年2回のイベントの補助を行うものです。

次に6ページをご覧ください。下段の達成目標についてです。参加者延べ人数の目標を今年度と同じく1,700人にしました。

続きまして7ページの実施目標についてです。今年度と同様ですが、小林委員長にお尋ねいただいた文言について少し補足いたします。

「横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく」と記したのは、チラシの発送作業など美術館のお手伝いの活動ではなく、ギャラリートークやイベントの企画実施など美術館とボランティア、ボランティア同士で相互の交流が可能な活動を想定しています。また「地域の新しいコミュニティ」とは、横須賀美術館でのボランティア活動が美術館、ボランティアの交流だけではなく、美術館、ボランティア、参加者（市民）へと広がっていくことをイメージしています。

〔事務局・工藤〕：「Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める」「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」についてご説明します。

8ページをご覧ください。事業計画「1 展覧会事業」の(1) 企画展では、幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。

春には当館の重要作家である「没後40年 朝井閑右衛門展」、夏には人気の絵本作家である「荒井良二」展を開催します。秋には、海外のデザイン展として「ロイヤル・コペンハーゲンと北欧デザインの煌めき」展、そして、当館では初の韓国を扱った展覧会として「躍動する韓国イラストレーションの世界」展を開催します。冬には、日本の歴代巨大ロボットのデザインに着目した「日本の巨大ロボット群像」展と、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

日程等詳細につきましてはそれぞれの項目をご覧ください。

9 ページをご覧ください。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展について、年4回それぞれテーマ性のある特集を組み、所蔵品を中心に紹介します。

今年度は所蔵品の中で、小企画展を予定しています。特に第1期では箱根と横須賀との連携企画を、第3期では地域ゆかりの作家である勝又豊子の展示、第4期では横須賀市田浦にあるアーティスト村「YOKOSUKA ART VALLEY HIRAKU」の滞在作家4名の展示を行います。

「2 教育普及事業」については、5つの柱ごとに開催内容を記載しています。

10 ページをご覧ください。

「3 美術図書室運営事業」について、美術図書等約34,000冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

「4 調査・研究」について、横須賀ゆかりの作家や所蔵作品に関連する情報を収集し、作品の調査・研究を行い、調査した内容を展覧会等に還元します。

11 ページをご覧ください。

達成目標は、令和4年度と同様に「企画展の満足度80%以上」を掲げ、令和元年度から令和4年度1月末までの数値をお示ししています。

中段にある実施目標も、令和4年度からの変更はありません。

[事務局・富田]: 「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」についてご説明いたします。

13 ページをご覧ください。事業計画は「1 学校との連携」に関する6項目、「2 子どもたちへの美術館教育」に関する4項目をあげています。活動の内容や回数について、令和4年度から大きな変更点はありませんが、「1 学校との連携 (3) 学校で行われる鑑賞活動の支援」のところで、タブレット端末を活用した鑑賞プログラムの開発という新たな取り組みを進めるため、先生方との意見交換を令和5年度から始めていきたいと考えています。

続いて、14 ページの達成目標をご覧ください。「中学生以下の年間観覧者数 22,000人」としており、こちらも例年と同様です。

令和2年度からの3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成の難しい状況でしたが、令和5年度は、夏と秋に絵本原画やイラストレーションをテーマとした親しみやすい企画展、また2月からはアニメやマンガなどでなじみの深い巨大ロボットをテーマとした企画展を予定しており、家族層に向けたPRを強化しながら目標達成に向けた取り組みを進めます。

実施目標は、14 ページ下段にあるとおりの6項目で、いずれも従来の目標を踏襲しています。これらの達成に向けて各事業に尽力してまいります。

[事務局・日野原]: 「⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」についてご説明します。

16 ページをご覧ください。事業計画 1～5、達成目標、実施目標ともに令和4年

度から大きな変更はありません。

「5 美術品等取得基金」について補足いたします。令和元年度よりふるさと納税寄付金を基金に積み立て、それを資金として令和3年度に作品購入を再開しました。今年度は長沢明氏、天野純治氏の作品を2点購入しました。令和5年度についてもコレクションの充実につながる優れた作品を購入できるよう検討を進めております。

寄附をアピールするロゴは、人目に付くよう展覧会印刷物や来館者アンケートに掲載しております。今後も継続してPRを行ってまいります。

〔事務局・下田〕：「Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する」「⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」についてご説明いたします。

18 ページをご覧ください。事業計画は、令和4年度から大きな変更はございません。引き続き、利用者にとって心地よいサービス、空間でいられるよう、受託事業者との連携、施設・設備の維持管理をしっかりと実施していきます。

令和5年度の主な修繕は、本館屋根シーリング修繕のみを予定しています。

達成目標についても、令和4年度から変更はございません。館内アメニティ満足度90%以上、スタッフ対応の満足度80%以上を目標としています。

〔事務局・富田〕：「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」についてご説明いたします。

20 ページをご覧ください。こちらは、一般的に美術館に訪れることが難しいと思われるがちな方へのサービスに関する項目で、特に障害のある方に向け、美術館を楽しんでいただくための環境を整えることを目標としています。

事業計画として、4項目をあげています。このうち「2 福祉関連イベントの開催」に関しては、3年前から計画していたものの新型コロナ感染症の影響で中断または延期となっていた点字図書館での鑑賞プログラムと通所作業施設利用者を対象としたワークショップを令和5年度に改めて開催することとします。

達成目標は、「福祉関連事業への参加者数延べ175人以上」としました。令和4年度は、対面事業開催の見通しが立たなかったため目標人数を60人以上としましたが、令和5年度は、定員数を抑えながらも、計画どおりの回数での事業開催を見込んだ数字としています。

21 ページをご覧ください。実施目標については、従来の目標を踏襲しています。1項目目の「年齢や障害の有無にかかわらず、美術に親しむための各種事業を行う。」という目標は、本項目の要ともなる部分で、この項目の達成に向けて、個々の事業に工夫を重ねていきたいと考えています。

〔事務局・下田〕：「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてご説明いたします。

22 ページをご覧ください。事業計画、達成目標ともに令和4年度の計画から変更ありません。令和2年度、令和3年度は臨時休館があった関係で、電気使用量は減少して

いました。令和4年度は、臨時休館がありませんでしたので、過去2年間に比べて、電気使用量が増加しています。実施目標に「職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。」と記載していますが、電気代が大変高騰していますので、今まで以上に職員全員が節電を意識しながら、事業や日々の事務に取り組んでいきたいと考えています。

令和5年度事業計画書案の説明は以上となります。

〔小林委員長〕：それでは、委員の皆様、事務局から説明のありました事業計画案について、ご意見やご質問がありましたら、お願いします。

まず、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」についていかがでしょうか。

〔小林委員長〕：特にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について、いかがでしょうか。

〔川口委員〕：ボランティアはどのように募集していますか。

〔事務局・日野原〕：横須賀美術館のホームページや広報よこすか等で募集しています。

〔川口委員〕：ボランティアの希望者はどのくらいいますか。

〔事務局・日野原〕：令和4年度の応募の数字は手元にはないが、基本的に当落はない。

〔川口委員〕：希望者は全員参加できるということか。

〔事務局・日野原〕：応募してすぐ参加できる活動と決められた研修への出席を経ることが必要な活動とがあるが、入口部分で制限をかけることはしていない。

〔小林委員長〕：「③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」について、いかがでしょうか。

〔鈴木委員〕：箱根との連携を魅力的に思う。連携の始まりと今後の展望を伺いたい。

〔岡本課長〕：箱根プロモーションフォーラムという団体があり、神奈川県山と海、東側と西側で、連携していきたいという話から、今回の箱根ラリック美術館との連携企画に至った。来年度以降も、プロモーションフォーラムに入っている団体と長く連携を続けていきたい。

〔小林委員長〕：「④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」について、いかがですか。

〔小林委員長〕：美術館と学校教育を結びつけることは大変重要。報告書を拝見し、学校連携について大変よくやっておられると思う。

本日は校長先生が委員にいらっしゃるので、現場にどのように反映されているか、より良くするためにはどうしたらよいかといったところを伺いたい。

〔三浦委員〕：市内全小学校6年生対象の「美術鑑賞会」の受け入れは、全員が対象になっているので、ありがたい。ただ、機械的に連れてくるのではなく、前後の学習が大事。先日自身が「先生のための美術館活用講座」に参加したが、事前指導、事後指導の部分で、資料や授業ノウハウの提供による美術館と先生の連携で、密度の濃いものになっているのではないかと考えている。講座ではICTを活用した鑑賞プログラムがメインの話題だったが、学校に導入済の情報端末の有効活用ということで、タブレット端末活用のプロジェクトチームも立ち上がっている。

子ども時代に美術館に足を運んだ経験、造形作品展で自分や友人の作品が展示されたという経験があると、大人になってからも足を運ぶきっかけになると思う。こういった事業を継続していければと思う。

〔小林委員長〕：三浦委員の発言を受けて、事務局からいかがでしょうか。

〔倉林館長〕：ありがたいお言葉をいただきました。みなさんに有効活用していただける取り組みは、ぜひ継続していきたいと思う。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。

〔小林委員長〕：学芸員実習の受け入れは毎年やっていることでしょうか。

〔事務局・日野原〕：はい。

〔小林委員長〕：学芸員の認定課程があっても、学芸員を受け入れて育ててくれる実習先の美術館がなかなかなく、課程が上手く機能していないところもある。公立美術館が指導するのは大変でしょうけど、ぜひ受け入れを続けて、厳しく育ててあげてほしい。

〔菊池委員〕：コロナ禍でも学校との連携を積極的にされていた。人は動けなかったが、オンラインやアートカードといった媒体を使用して工夫を凝らして取り組みを続けていた。学校現場でもオンラインの環境整ってきたので、美術館を直接訪れることはもちろん大切だが、ICTを活用して、学校現場と遠隔での連携も取り組み続けられるとよい。

学校で行われる鑑賞活動の支援、学校で行なわれるキャリア教育の支援は学校の要望があるときとされているが、教育委員会と連携して、コロナ禍で構築した今までにない仕組みと融合させていってほしい。

〔倉林館長〕：コロナ禍で学んだことを、オンラインとオフラインとを合わせて活用しながら、アフターコロナでも活かしていきたい。学校からの要望があるとき、ということに関しては、学校現場に相談のうえではあるが、美術館側からの提案やお声がけを考えていきたい。

〔柏木委員〕：ICTを活用した鑑賞プログラムの開発は、非常に重要だと考える。いつ頃に成果を出すことを目標に行っていくのか。

〔事務局・富田〕：着手したばかりなので、令和5年度すぐに構築するのは難しい。令和5年度に準備し、財源を確保して、令和6年度にひとつめの成果を出せるとよい。

〔柏木委員〕：財源確保が大事だと思うので、頑張ってもらいたい。

〔小林委員長〕：特にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」について、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。」について、いかがでしょうか。

〔鈴木委員〕：駐車場について伺いたい。友人たちがこの美術館をレストラン、ショップ、景色など含めて気に入っている。展覧会をみると駐車場が1時間無料になるが、展覧会をみて1時間以内に出庫することは難しいとのこと。もっと長く滞在できるとよいのだが、1時間はどのようにして決められているのか。

また、アンケートに駐車場に関する項目がないが、友人たちだけではなく意見を持っている方もいるのではないかと。

〔事務局・日野原〕：アンケートに駐車場の項目はないが、裏面14番の自由記述で駐車場についてご意見をいただくことが多い。ご指摘いただいた無料となる時間についてや

幅が狭いというご意見などをいただき、承知はしています。駐車場料金は条例で決まった金額となっているため、個別対応や時期によって金額を変えたりはしていない。

〔鈴木委員〕：条例で決まっていると知らなかった。神奈川県条例でしょうか。

〔事務局・日野原〕：横須賀市の条例です。

〔小林委員長〕：走水の水、いただいて帰ります。これはショップで売っていますか。

〔岡本課長〕：はい、売っています。

〔小林委員長〕：ヴェルニーによる水道は、横須賀製鉄所まで敷設された日本の近代水道の走り。それがショップで売られているのはよい。

この美術館は感じがよい。ぜひこの雰囲気を持続させてほしい。

〔小林委員長〕：「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」について、いかがでしょうか。

この美術館はバリアフリーに気を遣っている美術館だと思う。実際に美術館に携わっている柏木議員からみて、いかがでしょうか。

〔柏木委員〕：美術館はすべての人に開かれてることが原則だが、特定の障害をお持ちの方には馴染みにくさがあり、どうつないでいくかという点はこの美術館にとっても悩ましいところだと思う。

特に視覚障害者への対応は重要な課題。ハード面はもちろん、ソフト面でどう課題を解決していくのか、親しみを持ってもらえるようにしていくのが大事。

この美術館は長くしっかりと取り組んできている美術館だと思うので、活動を続けていってほしい。

〔小林委員長〕：何人の来館者があったかという数の問題で見られがちだが、公立美術館として押さえるべきところを押さえて、それがひとつの特徴にもなるように努力していただきたい。

〔小林委員長〕：10年ほど前は美術館の方向性を心配してか何人もの傍聴者があった。最近は何年も傍聴者がいない。市民の中で美術館の箱ものとしての悪評がなくなったと理解してよろしいでしょうか。事務局の方、いかがでしょうか。

〔倉林館長〕：市民の方には安心、期待していただいているのかと思う。一方で市議会からは、良い意味で今でもたくさんの質問をいただいております、注目はいただいているのかと。引き続き気を引き締めてやっていきたい。

〔菊池委員〕：開館当時は順風満帆ではなかったもので、どうなるんだろうというところがあった。委員を委嘱した頃は、学芸と運営、ショップなどみんながバラバラだったように感じていた。当初と比べると、雲泥の差でみんなのベクトルがあってきている。広報のやり方などもあってきている。

〔小林委員長〕：「⑧事業の質を担保しながら、経常的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」について、いかがでしょうか。

〔菊池委員〕：来館者が増えれば使用量は増える。今般の電気料の高騰のようなことがあれば、質の担保を考えると削減できない状況がある。日頃努力していただくしかない。

続く 23 ページの「美術館費全体の予算」について、美術品を購入する資金が 4,114 万円も確保されているのは、学芸員もモチベーションが高くなるのではと思う。

質問だが、歳入のその他が前年度費で 9,294 万円も増えているのはなぜか。

〔岡本課長〕：当館は恋人の聖地に登録しているが、その関連で国の補助金を申請しており、その見込額が含まれている。地方創生交付金で、補助額は展覧会事業費の半額程度。

〔菊池委員〕：それはよいことですね。一方で、歳出の給与費が前年度費で 1,888 万円も下がっているのはなぜか。

〔岡本課長〕：組織として係長が 1 名減員になったことによる減額です。

〔菊池委員〕：賃金はモチベーションに直結することなので一言残しておく。以上です。

〔小林委員長〕：「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」から「⑧事業の質を担保しながら、経常的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」までご意見を伺いましたが、全体を通してご意見はありますか。

〔菊池委員〕：確認しておきたい。コロナが落ち着いて外国人の来館者は増えているか。

〔岡本課長〕：来館者全体に対する比率ではまだそれほど数には表れていないが、基地対策課を通したプロモーションなどを積極的に行い、それによる来館者やリピーターがいらしている。数としては、これから徐々に増えていくのではないかと考えている。

〔菊池委員〕：良い方向だと思うので引き続きやっていただきたい。

「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」に外国人に対するアプローチが書いてない。横須賀の特色であり、コロナ前は結構あったと思うが、コロナがきっかけで消えてしまったのか。

〔倉林館長〕：部全体としてインバウンドを意識していかなければならないので、何らな形でキーワードとしてだけでも入れられないか検討したい。

〔小林委員長〕：他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは事務局に戻します。

〔事務局・下田〕：

多くのご意見ご質問をありがとうございました。ご指摘いただいた点の中で、即時対応できる案件はさせていただき、検討が必要な案件も早急に検討しつつ事業を進めて参ります。

修正した事業計画案はデータにて皆様にお送りさせていただきますのでご確認いただき、再度ご意見等をいただいた後、確定版とさせていただきます。

【(2) 来館者アンケートの見直しについて】

〔小林委員長〕：次に、「(2) 来館者アンケートの見直しについて」事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田〕：

それでは、来館者アンケートの見直しについて、説明いたします。資料3の「アンケートにご協力をお願いします。」と書かれた資料をご覧ください。

今回は、裏面の2か所の見直しを行いたいと考えています。

1か所目は、「当館や展覧会について、何でお知りになりましたか？」の選択肢です。修正、追加をした選択肢を赤で表示しています。こちらは、主に広告宣伝費の効果を測定するため、「どこの駅でポスターを見たか」といった記述や、SNS 広告の選択肢を追加しました。

2か所目は、一番下、15のアンケート回答者の属性、性別欄についてです。こちらは市役所人権・ダイバーシティ推進課から、全庁的な取り組みとして、アンケート等の性別欄の記載について、今回お示した案にするよう指示がありましたので、対応したものです。

来館者アンケートの見直しについては、以上となります。

〔小林委員長〕：来館者アンケートの見直しについて、委員の皆様からご意見ありますでしょうか。

このアンケートの一番狙いは何でしょうか。書く人からすると、両面あって結構大変。設置されている小さな鉛筆は丸がつきにくくて、書きにくい。せっかく良いアンケートでも、書きにくさや量が多くて回答がもらいにくいということではもったいないと思う。

〔事務局・日野原〕：項目見直しを何度か行っているが、継続的にデータをとって比較したい。そのため見直しの時期は年度ごと、委員の皆様の承認をいただいで行っており、大枠の項目はこれまでさほど大きく変えていない。

以前柏木委員から、作品の配置や順路についてと作品解説についてが同じ項目なのはおかしいのではというご意見をいただき、項目を切り分けたなどの見直しは適宜行ってきた。

〔柏木委員〕：多少お金はかかるが、専門のコンサルの人に見てもらう必要がある。この分野のプロフェッショナルに見てもらわないと、館として分析したい内容と違うアンケートになってしまっていることもある。私が勤めている美術館でも以前そういうことがあった。

〔倉林館長〕：市役所の中にも市民アンケートを作成、項目を分析している部署があるので、一度その部署に相談してみたい。

〔事務局・富田〕：補足いたします。

アンケートの項目は、開館時の導入当初、北海道大学でミュージアム経営を研究されている統計学の佐々木先生に相談。ミュージアムの運営評価のプロジェクトチームがあった時期でもあり、地域創造分野の方にも相談して、運営評価委員会の評価項目と連動させるという前提としている。

11、12、13 は、館の新しい取り組みを始める度に増えてしまっている状況。

1～10 は運営委員会の評価に連動しているので、変えるのであれば、運営評価項目そのものを一緒に見直して変えていく必要がある。

〔柏木委員〕：アンケートは回収率が低いのが長年の課題。小林委員長から丸をつけるのが大変という話もあった。効果がどれだけあるかはわからないが、帰宅後でも回答できるようにQRコードを導入するのはどうか。無料のものもある。

〔倉林館長〕：ほぼ無料のアンケート作成方法もあるので活用の検討をしていきたい。

〔事務局・日野原〕：回収率は例年ご指摘いただいでいる。令和4年度は昨日までで2,300枚を超え、観覧者数の15%超えで回収できている。例年1,500枚程度のため、例年より多い回収数となっている。

展覧会を実際に観た人の回答であるという正確性の担保が必要なので、QRコードを導入する際には、チケット購入者のみに紙で渡すなど観ていない人が回答できない仕組みにしなければならない。

統計学の佐々木先生からは、1展覧会あたり300の回答数があれば十分と言われている。令和4年度は、夏場と繁忙期を除いて受付でアンケート用紙を手渡しするなど回収数の増加に努めている。

〔倉林館長〕：鉛筆が書きづらい、非接触で回答できる、若者はスマホが使いやすいといった点を考慮して検討していきたい。

【3 その他（1）今後のスケジュールについて】

〔小林委員長〕：次に、「3 その他（1）今後のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田〕：それでは、資料4「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。

まず、本日第3回会議では、令和5年度の事業計画書案について、ご確認いただきました。

この会議で委員の皆様から頂戴したご意見を参考に、事業計画案をさらに詰めた上で、新年度には完成したものをご提示いたします。

また、令和4年度事業の評価については、新年度になってから事務局において1次評価を行った後に、委員の皆様にご2次評価をお願いする予定です。

新年度の第1回会議では、2次評価をもとに皆様に議論していただき、評価が決定した後に評価報告書を完成させるという流れになります。

第1回会議の日程については、改めて日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

今後のスケジュールについては、以上となります。

〔小林委員長〕：今後のスケジュールについて、委員の皆様から何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは事務局に戻します。

〔事務局・岡本課長〕：長時間に渡り、本日は、ありがとうございました。本日いただいたご意見をもとに、引き続き取り組んでまいります。

来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：それでは、事務連絡を4点ほどお伝えします。

まず、本日の報酬ですが、後日ご指定いただいている口座に振込をさせていただきます。手続きの関係で、最長で3週間ほどいただきますので、ご了承ください。

2点目です。お車でお越しの方は駐車券の処理をさせていただきます。まだ未処理の方は、会議終了後、こちらでお預かりさせていただきます。

3点目です。現在、企画展「土方重巳展」を開催しております。お時間の許される方は、この後、ご入館いただけますので、私までお声かけください。

最後に、公用車で馬堀海岸駅までお送りします。ご乗車される方は、会議終了後、お荷物を準備していただき、こちらまでお集まりください。

事務局からは以上です。

[小林委員長]：それでは、これで本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。